

令和7年度 香川県がん患者ニーズ調査報告書

令和7年 11 月～令和8年 1 月実施



香川県がん征圧イメージキャラクター
「ソウキくん」

令和8(2026)年6月

香川県健康福祉部健康政策課

はじめに

がんは、昭和52年以降今日まで、本県の死亡原因の第1位となっています。県内では毎年約8千人前後の方ががんと診断され、約3千人の方ががんで亡くなっています。最新のがん統計によると、日本人の約2人に1人が一生のうちに何らかのがんにかかると推計されているなど、がんは、県民の生命と健康にとって重大な問題となっています。

本県では、令和6年3月に、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間とする「第4次香川県がん対策推進計画」を策定しました。この計画では、「県民一人ひとりが、がんを知り、お互いに手をたずさえて、がんの克服を目指す」を基本理念としています。がん患者とその家族等を含めた県民一人ひとりが、がんについて知り、がんの予防及びがんの早期発見を進めるとともに、がんにかかっても納得できる医療と必要な支援が受けられることで、お互いに手をたずさえて、尊厳をもって安心して暮らすことができる社会を構築し、がんの克服を目指すため、県として総合的ながん対策の推進に取り組んでいるところです。

このたび、「第4次香川県がん対策推進計画」の中間評価及び次期計画の策定の参考資料とするため、「香川県がん患者ニーズ調査」を実施し、がん医療やがん患者の療養生活に係る実態や意見等について調査を行いました。

調査結果を踏まえ、本県における今後のがん対策が、がん患者等を含めた県民の視点に立ったものとなるよう課題を整理し、がん対策の一層の推進に活用してまいります。

調査に当たっては、県内のがん診療連携拠点病院である香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院、三豊総合病院、並びに香川県がん診療連携協力病院の四国こどもとおとなの医療センター、高松市立みんなの病院のほか、関係各所に御協力をいただき、治療を受けておられるがん患者やその御家族の皆様から、貴重な御意見をいただきました。

調査の実施及び回答に御協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

令和8年6月

香川県健康福祉部健康政策課

調査の概要について

目的

がん医療やがん患者の療養生活に係る実態や意見等について調査を行い、がん対策を取り巻く状況やがん患者のニーズを把握することにより、「第4次香川県がん対策推進計画」の中間評価及び次期計画策定のための参考資料を得る。

実施主体

香川県

調査対象

香川県内のがん診療連携拠点病院(香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院、三豊総合病院)及び香川県がん診療連携協力病院(四国こどもととなの医療センター、高松市立みんなの病院)においてがんと診断・告知され、治療を開始している外来患者及び入院患者

実施方法

各病院において、調査期間中に外来に受診又は入院している者に対し、外来又は病棟で所定の調査用紙と封筒を配布し以下の方法により回答を求めた。

- 紙回答の場合:記入済みの調査用紙入りの封筒を各病院の窓口にて回収し県へ送付
- WEB回答の場合:調査票に記載のQRコード等から県へ回答(窓口での回収は不要)

調査期間

令和7年11月～令和8年1月末

調査票配布・回収状況

配布数 1,000部

回収数 604部(うち同意のあったもの597部)

(紙回答505部、WEB回答99部)

回収率 60.4%

調査項目

- I 患者について……………(問1～6)
- II がんの診断について……………(問7～11)
- III がんの治療について……………(問12～21)
- IV がん治療の諸問題について…(問22～31)
- V がん治療と就学について……(問32～36)
- VI がん治療と就労について……(問37～42)
- VII 療養生活全般について……………(問43～45)
- VIII クロス集計

調査結果

I 患者について

- ・患者の主な年齢層は、「70歳以上(48.3%)」、「60歳代(28.1%)」、「40～50歳代(21.1%)」
- ・通院時間は、87.9%が1時間未満
- ・主な家族構成は、「配偶者・パートナーと同居(69.3%)」、「子ども(34.6%)」で、「ひとり暮らし」は15.5%

問1. この調査票を記入している方はどなたですか。

患者様ご本人	538	(92.0%)
患者様のご家族	45	(7.7%)
その他	2	(0.3%)

(回答数 585)

問2. 性別をお答えください。

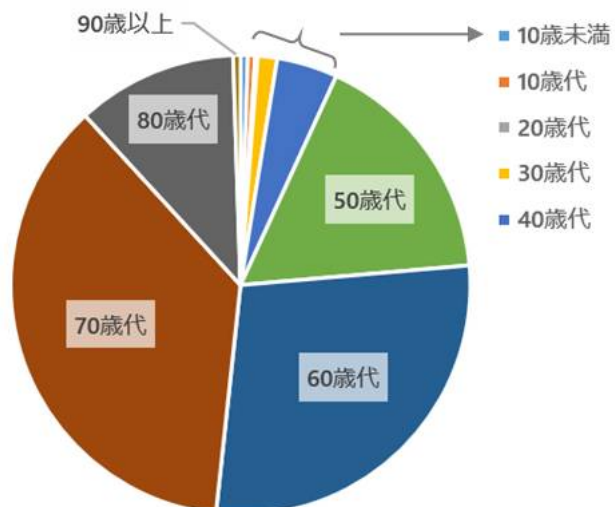
男性	293	(49.8%)
女性	293	(49.8%)
回答しない	2	(0.3%)

(回答数 588)

問3. 年齢をお答えください。

10歳未満	3	(0.5%)
10歳代	3	(0.5%)
20歳代	1	(0.2%)
30歳代	8	(1.4%)
40歳代	25	(4.3%)
50歳代	98	(16.8%)
60歳代	164	(28.1%)
70歳代	213	(36.5%)
80歳代	66	(11.3%)
90歳以上	3	(0.5%)

(回答数 584)



問4. 現在、入院中か通院中かをお答えください。

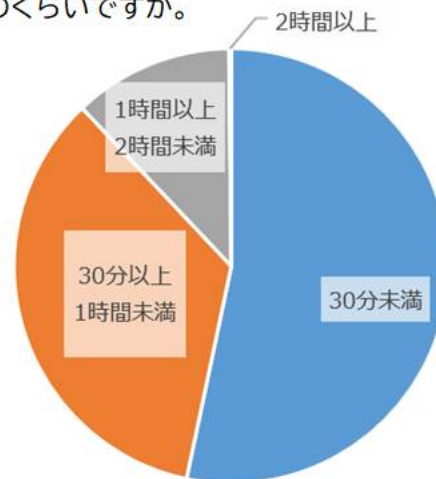
入院中	189	(32.3%)
通院中	397	(67.7%)

(回答数 586)

問5. ご自宅から病院までの片道の所要時間はどのくらいですか。

30分未満	314	(53.3%)
30分以上1時間未満	204	(34.6%)
1時間以上2時間未満	70	(11.9%)
2時間以上	1	(0.2%)

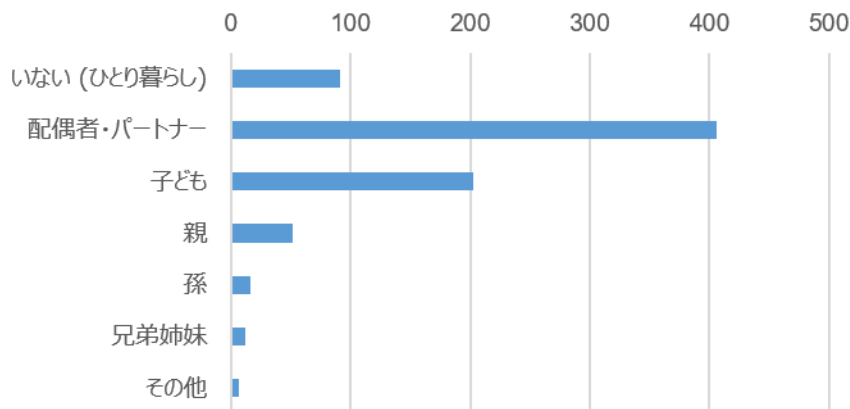
(回答数 589)



問6. ご自宅で同居されている方を教えてください。(当てはまるもの全て)

いない(ひとり暮らし)	91	(15.5%)
配偶者・パートナー	406	(69.3%)
子ども	203	(34.6%)
親	52	(8.9%)
孫	16	(2.7%)
兄弟姉妹	12	(2.0%)
その他	7	(1.2%)

(複数回答 総数 586)



II がんの診断について

- ・がん診断時にステージ告知を受けた方の割合は、72.1%
- ・本人が家族とともにがん告知を受けた割合は、61.5%
- ・がん告知後に「相談を必要としていた」方のうち、約94%の方が「相談できた」、約6%の方が「相談できなかった」と回答
- ・相談できた方の主な相談先は、「家族・親戚(79.2%)」、「主治医(62.5%)」

問7. 最初にがんと告知されたのはいつですか。

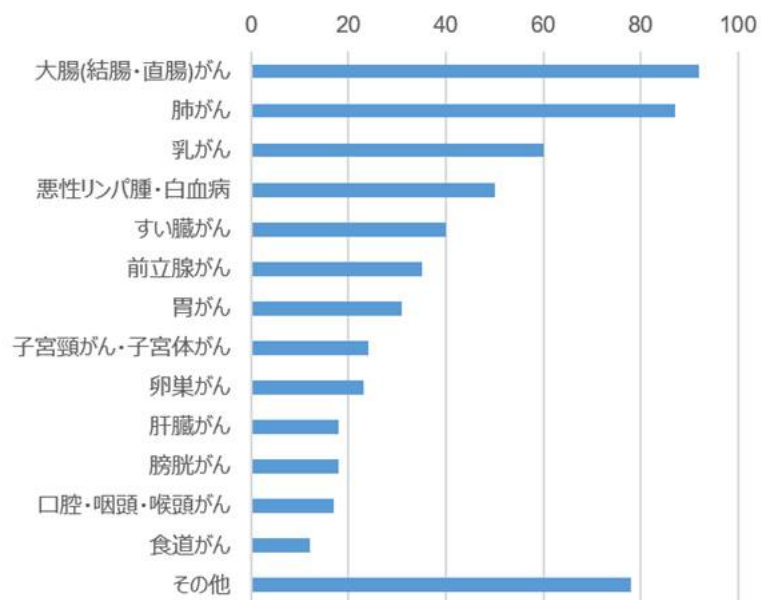
1年以内	257	(48.4%)
1年以上2年未満	85	(16.0%)
2年以上3年未満	49	(9.2%)
3年以上5年未満	68	(12.8%)
5年以上10年未満	36	(6.8%)
10年以上	36	(6.8%)

(回答数 531)

問8. 最初にどの部位の「がん」と診断されましたか。

大腸(結腸・直腸)がん	92	(15.7%)
肺がん	87	(14.9%)
乳がん	60	(10.3%)
悪性リンパ腫・白血病	50	(8.5%)
すい臓がん	40	(6.8%)
前立腺がん	35	(6.0%)
胃がん	31	(5.3%)
子宮頸がん・子宮体がん	24	(4.1%)
卵巣がん	23	(3.9%)
肝臓がん	18	(3.1%)
膀胱がん	18	(3.1%)
口腔・咽頭・喉頭がん	17	(2.9%)
食道がん	12	(2.1%)
その他	78	(13.3%)

(回答数 585)



その他の内訳

多発性骨髄腫(骨髄腫 含)・腎臓がん各9、
胆管がん4、胆のうがん3 ほか

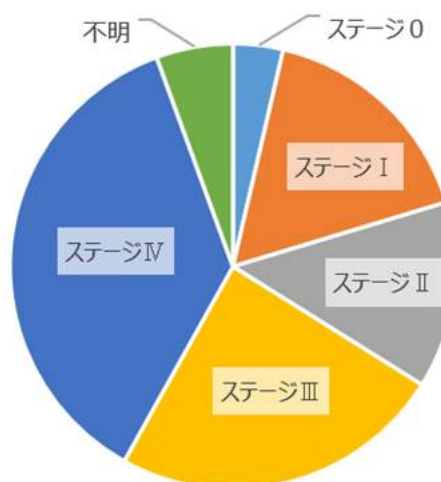
問9. 最初にがんと診断されたとき、がんの進行度(ステージ)を知らされましたか。

知らされた	417	(72.1%)
知らされなかった	116	(20.1%)
わからない	45	(7.8%)

(回答数 578)

ステージ0	15	(3.6%)
ステージⅠ	69	(16.7%)
ステージⅡ	56	(13.6%)
ステージⅢ	100	(24.2%)
ステージⅣ	150	(36.3%)
不明	23	(5.6%)

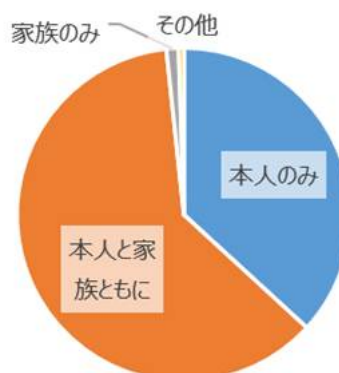
(回答数 413)



問10. 最初のがんの診断・告知の際、医師からどなたに病名を告げられましたか。

本人のみ	218	(36.8%)
本人と家族ともに	364	(61.5%)
家族のみ	7	(1.2%)
その他	3	(0.5%)

(回答数 592)



問11. がんと診断・告知されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。

相談を必要としなかった	153	(26.1%)
相談が必要だったが、できなかった	26	(4.4%)
相談できた	407	(69.5%)

(回答数 586)

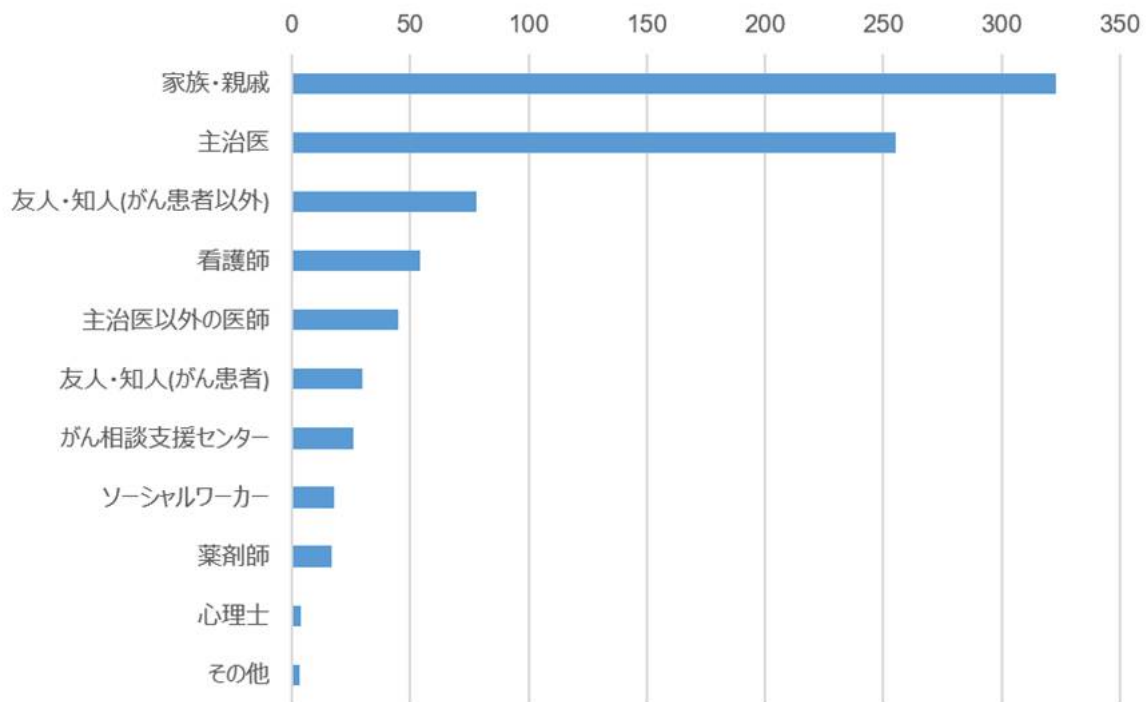
相談できなかった理由

- ・誰に相談してよいか分からなかった。
- ・時間的、精神的に余裕がなかった。
- ・身近に同じがんになった人がいなかった。
- ・心配をかけたくなかった。 など

問11-②. 問 11 で「相談できた」と答えた方にお聞きします。誰に相談しましたか。(当てはまるもの全て)

家族・親戚	323	(79.2%)
主治医	255	(62.5%)
友人・知人(がん患者以外)	78	(19.1%)
看護師	54	(13.2%)
主治医以外の医師	45	(11.0%)
友人・知人(がん患者)	30	(7.4%)
がん相談支援センター	26	(6.4%)
ソーシャルワーカー	18	(4.4%)
薬剤師	17	(4.2%)
心理士	4	(1.0%)
その他	3	(0.7%)

(複数回答 総数 408)



Ⅲ がんの治療について

- ・診断後に欲しかった情報として多いものは、「標準的な治療方法(45.5%)」、「一般的な治療成績(32.1%)」、「治療による副作用(30.6%)」。一方、47.9%が主治医の説明だけで十分と回答。
- ・セカンドオピニオンを受けた方の割合は、13.0%
- ・情報収集の手段として多いものは、「インターネット(56.5%)」、「家族・親戚(25.6%)」、「病院備え付けのパンフレット類(18.4%)」
- ・患者会やピアサポートを利用したことがある方の割合は、3.4%
- ・病名告知等の際に配慮を「かなり／ある程度感じられた」方の割合は、78.0%
- ・60.2%の方がかかりつけ医がいる、70.7%の方がかかりつけ歯科医師がいる

問12. これまで受けたがん治療についてお答えください。2種類以上のがんについて治療された場合には、直近のものについてお答えください。(当てはまるもの全て)

化学療法（分子標的薬、免疫療法を含む）	395	(68.6%)
手術（内視鏡治療を含む）	342	(59.4%)
放射線治療（陽子線治療、重粒子線治療を含む）	119	(20.7%)
ホルモン療法	38	(6.6%)
緩和ケア※	16	(2.8%)
造血細胞移植（同種移植、自家移植を含む）	11	(1.9%)
その他	16	(2.8%)
わからない	10	(1.7%)

(複数回答 総数 576)

※緩和ケア：病気の進行具合にかかわらず、患者やその家族が抱える様々なつらさを和らげ、療養生活の質を維持向上するための治療やケア、援助などをいいます。

問13. がんと診断されて以降、どのような情報が欲しかったですか。(当てはまるもの全て)

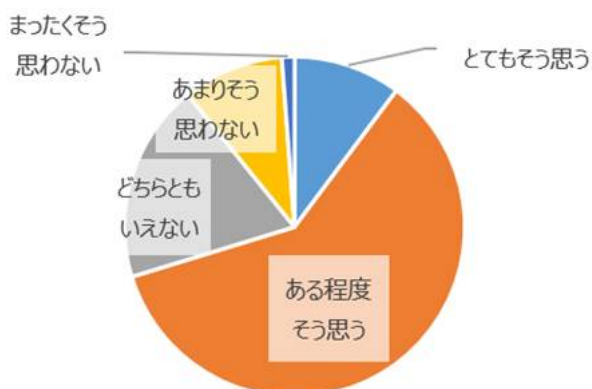
主治医の説明だけで十分だったので、追加で情報は欲しいと思わなかった	280	(47.9%)
自分のがんの標準的な治療の方法（手術、化学療法など）	266	(45.5%)
自分のがんの一般的な治療成績（5年生存率など）	188	(32.1%)
治療による副作用（脱毛、吐き気、生殖機能の低下など）	179	(30.6%)
経済的負担がどれくらいになるか	157	(26.8%)
仕事や学業との両立支援について	81	(13.8%)
免疫療法、ゲノム医療、陽子線・重粒子線治療など先進医療が受けられるか	79	(13.5%)
近くの病院の治療実績（手術件数、患者数、専門医数など）	49	(8.4%)
介護や育児との両立支援について	7	(1.2%)
その他	14	(2.4%)

(複数回答 総数 585)

問13-②. 問13で「主治医の説明だけで十分だったので、追加で情報は欲しいと思わなかった」以外を選択した方にお聞きします。十分な情報を得ることができたと思いますか。

とてもそう思う	34	(10.2%)
ある程度そう思う	200	(60.1%)
どちらともいえない	63	(18.9%)
あまりそう思わない	32	(9.6%)
まったくそう思わない	4	(1.2%)

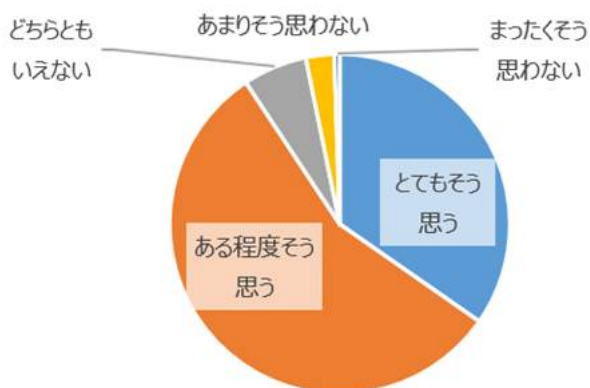
(回答数 333)



問14. がんと診断されてから「がんの治療」を決めるまでの間に、主治医から治療に関する十分な情報を得ることができたと思いますか。

とてもそう思う	205	(34.7%)
ある程度そう思う	331	(56.0%)
どちらともいえない	36	(6.1%)
あまりそう思わない	16	(2.7%)
まったくそう思わない	3	(0.5%)

(回答数 591)



問15. セカンドオピニオン※を受けたことがありますか。

ある	76	(13.0%)
ない	508	(87.0%)

(回答数 584)

※セカンドオピニオン：診断治療に関して、別の医師の意見を聞くことをいいます。

問15-②. 問15で「ない」と答えた方にお聞きします。受けなかった理由を教えてください。

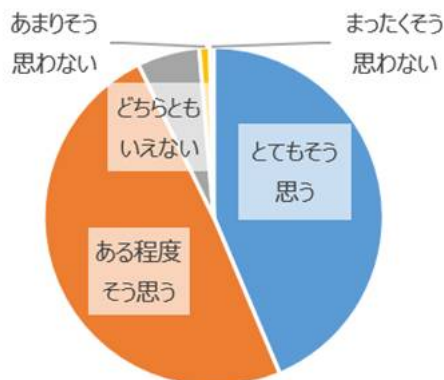
主治医から話はあったが、主治医の説明だけで納得できたため	358	(77.7%)
主治医から話はあったが、主治医との関係が悪くなると心配したため	10	(2.2%)
主治医から話はあったが、経済的な負担が気になったため	8	(1.7%)
主治医から話はあったが、その他の理由で受けなかったため	14	(3.0%)
主治医から話がなかったため、知っていたが、言い出せなかったため	32	(6.9%)
主治医から話がなくて、セカンドオピニオンを知らなかったため	19	(4.1%)
その他	20	(4.3%)

(回答数 461)

問16. これまでに受けた治療について、納得していますか。

とてもそう思う	257	(43.6%)
ある程度そう思う	289	(49.1%)
どちらともいえない	35	(5.9%)
あまりそう思わない	6	(1.0%)
まったくそう思わない	2	(0.3%)

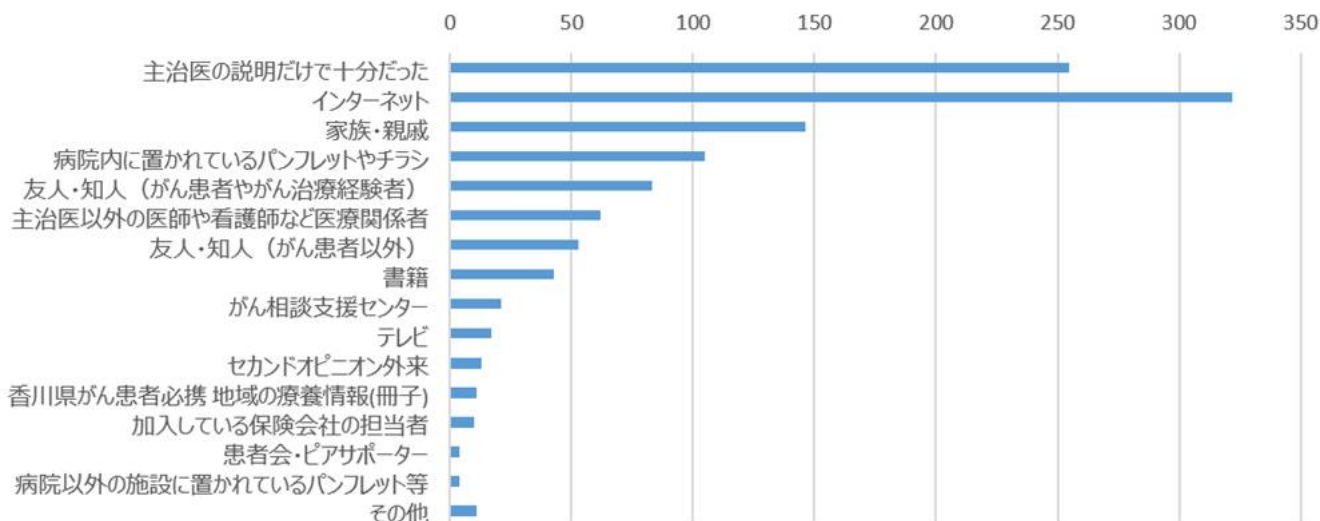
(回答数 589)



問17. がんと診断されて以降、どこから情報を集めましたか。(最も当てはまるもの上位3つ)

主治医の説明だけで十分だった	255	(44.7%)
インターネット	322	(56.5%)
家族・親戚	146	(25.6%)
病院内に置かれているパンフレットやチラシ	105	(18.4%)
友人・知人 (がん患者やがん治療経験者)	83	(14.6%)
主治医以外の医師や看護師など医療関係者	62	(10.9%)
友人・知人 (がん患者以外)	53	(9.3%)
書籍	43	(7.5%)
がん相談支援センター	21	(3.7%)
テレビ	17	(3.0%)
セカンドオピニオン外来	13	(2.3%)
「香川県がん患者必携 地域の療養情報」の冊子	11	(1.9%)
加入している保険会社の担当者	10	(1.8%)
患者会・ピアサポーター	4	(0.7%)
病院以外の施設に置かれているパンフレットやチラシ	4	(0.7%)
その他	11	(1.9%)

(複数回答 総数 570)



問18. これまでに、患者会やピアサポート※を利用したことがありますか。

患者会やピアサポートについて知らない	331	(56.9%)
患者会やピアサポートについて知っているが、利用したことはない	231	(39.7%)
利用したことがある	20	(3.4%)

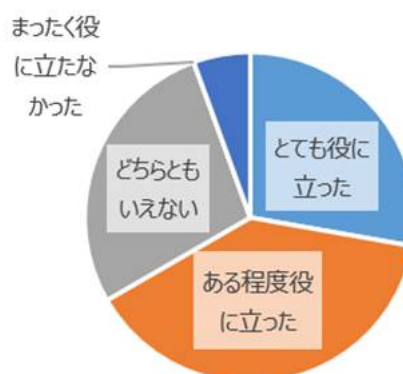
(回答数 582)

※ピアサポート：患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援することをいいます。

問18-②. 問18で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。患者会やピアサポートを利用してどの程度役に立ったと思いますか。

とても役に立った	5	(27.8%)
ある程度役に立った	7	(38.9%)
どちらともいえない	5	(27.8%)
あまり役に立たなかった	0	(0.0%)
まったく役に立たなかった	1	(5.6%)

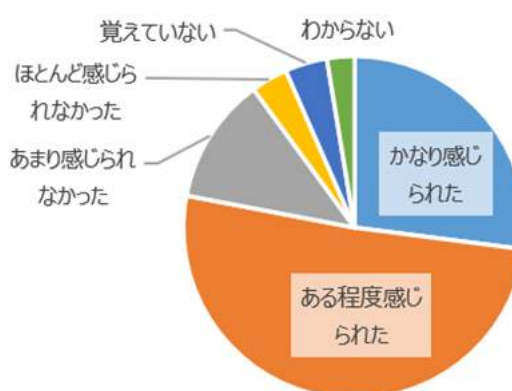
(回答数 18)



問19. 病名告知や病状・治療方針の説明の際、主治医や医療スタッフから、精神的なショックをなるべく和らげるような、患者の立場に立った配慮を感じられましたか。

かなり感じられた	156	(27.0%)
ある程度感じられた	294	(51.0%)
あまり感じられなかった	69	(12.0%)
ほとんど感じられなかった	20	(3.5%)
覚えていない	23	(4.0%)
わからない	15	(2.6%)

(回答数 577)



配慮としてよかった点

- ・主治医等スタッフの対応や声掛けが優しい。常に不安に対して向き合ってくれているという安心感が得られた。
- ・入院中、説明や相談の時、別室で話をしてくれる配慮があった。
- ・過度に共感を示されるのではなく、こちらを前向きにさせてくれる力強い言葉がありがたかった。
- ・小さな子供がいるが、家族のことも含め、気にかけてくれた。
- ・図・イラスト等資料を使って、メリット・デメリットを分かりやすく説明していただいた。

配慮が足りないと感じた点

- ・これからどうなるのか(身体的、精神的)についての不安に対するフォローがあまりなかった。
- ・患者が多い病院であるが、主治医の説明が足りず流れ作業的な印象を受けた。

問20. この用紙を受け取った病院以外で「かかりつけ医」はいますか。

いない	230	(39.8%)
いる	348	(60.2%)
(回答数 578)		

問20-②. 問20で「いる」と答えた方にお聞きします。かかりつけ医に、がんの病状や治療について話すことはありますか。

話すことはない	69	(20.8%)
病状や治療の報告のみ	205	(61.7%)
症状やがん治療の副作用など困ったことに対応してもらっている	33	(9.9%)
病院の担当医と連携して、がん治療自体をかかりつけ医で受けている	25	(7.5%)
(回答数 332)		

問21. この用紙を受け取った病院以外で「かかりつけ歯科医師」はいますか。

いない	169	(29.3%)
いる	407	(70.7%)
(回答数 576)		

問21-②. 問21で「いる」と答えた方にお聞きします。かかりつけ歯科医師に、がんの病状や治療について話すことはありますか。

話すことはない	210	(53.4%)
病状や治療の報告のみ	133	(33.8%)
病院の担当医と連携して、がん治療をするために必要な歯科治療をかかりつけ歯科医師から受けている	26	(6.6%)
症状やがん治療の副作用など困ったことに対応してもらっている	24	(6.1%)
(回答数 393)		

IV がん治療の諸問題について

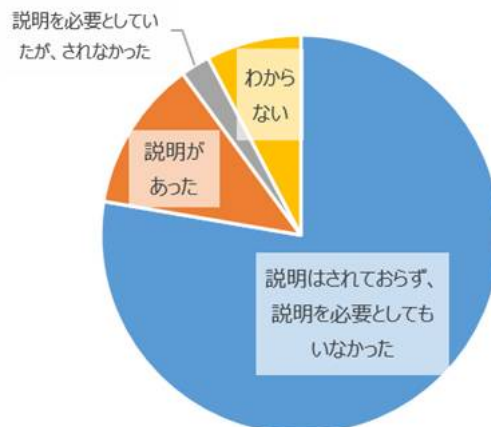
- ・妊孕性温存について、説明を受けた方の割合は、12.2%。治療費助成が必要と思う（とても／ある程度）方の割合は、82.1%
- ・外見変貌を補完する補整具の購入費用助成が必要と思う（とても／ある程度）方の割合は、94.7%
- ・がん相談支援センターを知っている方の割合は、66.2%。利用した方のうち、役に立ったと思う（とても／ある程度）方の割合は、84.7%
- ・緩和ケア部門に相談したことがある方の割合は、8.7%。利用した方のうち、対応に満足した（とても／ある程度）方の割合は、96.0%

問22. 最初のがん治療が開始される前に医師からその治療による生殖機能への影響(妊よう性※消失の可能性など)について説明を受けましたか。

説明はされておらず、説明を必要としてもいなかった	425	(77.7%)
説明があった	67	(12.2%)
説明を必要としていたが、説明はされなかった	13	(2.4%)
わからない	42	(7.7%)

(回答数 547)

※妊よう性：女性にも男性にも関わることで「妊娠するための力」のことをいいます。



問22-②. 問22で「説明があった」と答えた方にお聞きします。それはどのような説明でしたか。

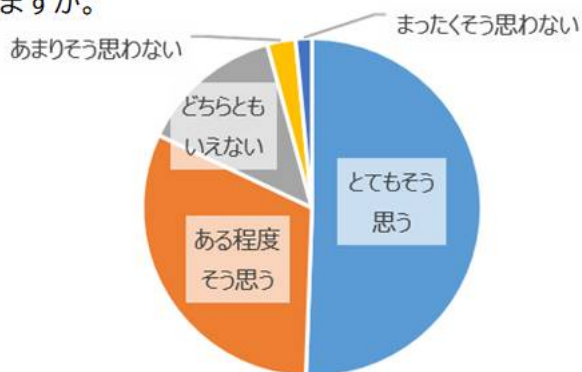
生殖機能への影響はない、という説明を受けた	8	(13.3%)
生殖機能への影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった	16	(26.7%)
生殖機能への影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった	6	(10.0%)
生殖機能への影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった	5	(8.3%)
生殖機能への影響がある、という説明はあったが、治療上の緊急性の観点から、治療を優先するべきと説明があった	25	(41.7%)

(回答数 60)

問23. 香川県ではがん等の治療の影響により生殖機能が低下するまたは失うおそれがあると診断された43歳未満の患者の方の妊よう性温存の治療費を一部助成する事業を行っています。この制度は妊よう性温存治療を受ける上で必要だと思いますか。

とてもそう思う	262	(50.6%)
ある程度そう思う	163	(31.5%)
どちらともいえない	71	(13.7%)
あまりそう思わない	14	(2.7%)
まったくそう思わない	8	(1.5%)

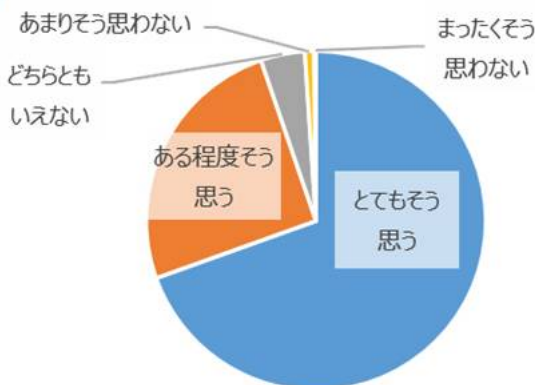
(回答数 518)



問24. 香川県では、がん患者の方に対し、治療による脱毛や乳房切除などの外見変貌を補完する補整具の購入費用を一部助成する事業を行っています。この制度は患者の心理的負担の軽減や、治療と社会生活の両立を図る上で必要だと思いますか。

とてもそう思う	397	(69.5%)
ある程度そう思う	144	(25.2%)
どちらともいえない	24	(4.2%)
あまりそう思わない	5	(0.9%)
まったくそう思わない	1	(0.2%)

(回答数 571)



問25. がんの治療のために使ったお金は、多い月でどの程度ですか。

医療費

1万円未満	12	(2.5%)
1万円以上2万円未満	38	(7.8%)
2万円以上3万円未満	23	(4.7%)
3万円以上4万円未満	26	(5.3%)
4万円以上5万円未満	14	(2.9%)
5万円以上6万円未満	32	(6.6%)
6万円以上11万円未満	150	(30.7%)
11万円以上16万円未満	61	(12.5%)
16万円以上21万円未満	58	(11.9%)
21万円以上26万円未満	17	(3.5%)
26万円以上31万円未満	21	(4.3%)
31万円以上	36	(7.4%)

(回答数 488)

医療費以外

1万円未満	92	(20.6%)
1万円以上2万円未満	172	(38.5%)
2万円以上3万円未満	74	(16.6%)
3万円以上4万円未満	37	(8.3%)
4万円以上5万円未満	5	(1.1%)
5万円以上6万円未満	31	(6.9%)
6万円以上11万円未満	27	(6.0%)
11万円以上16万円未満	4	(0.9%)
16万円以上21万円未満	0	(0.0%)
21万円以上26万円未満	3	(0.7%)
26万円以上31万円未満	0	(0.0%)
31万円以上	2	(0.4%)

(回答数 447)

問26. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか。

ない	557	(95.7%)
ある	25	(4.3%)

(回答数 582)

問26-②. 問26で「ある」と答えた方にお聞きします。治療費用負担の問題が無ければ受けた可能性のある治療は次のどれですか。

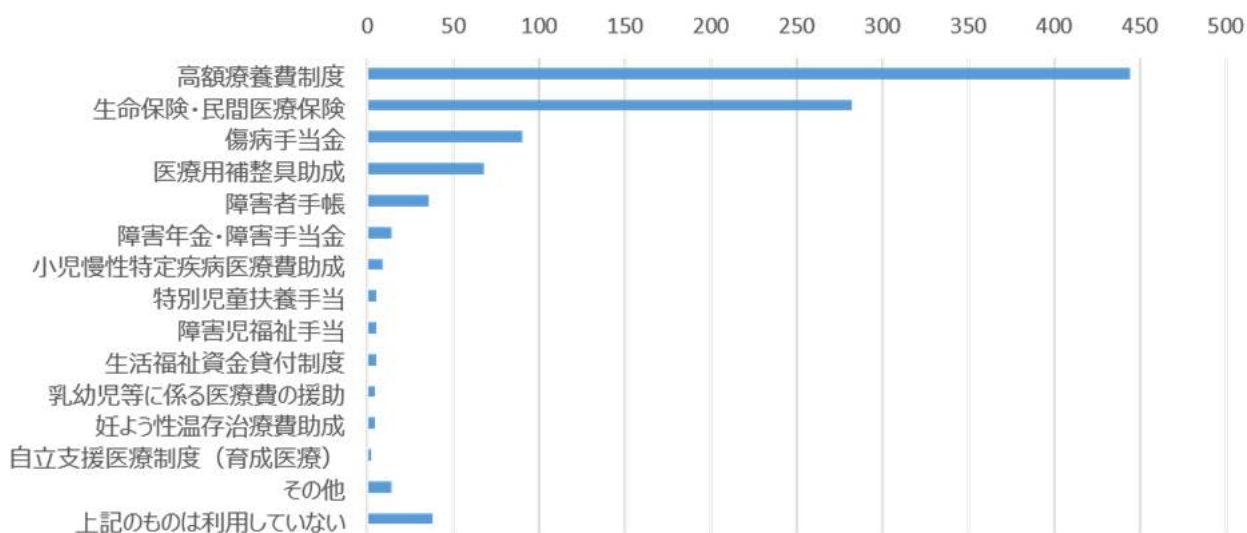
保険診療範囲内での治療	11	(45.8%)
保険診療範囲外の治療（先進医療を含む）	8	(33.3%)
わからない	5	(20.8%)

(回答数 24)

問27. 治療や療養生活の経済的負担を軽減するために利用したものについて、お答えください。(当てはまるもの全て)

高額療養費制度	444	(80.0%)
生命保険・民間医療保険	282	(50.8%)
傷病手当金	90	(16.2%)
医療用補整具助成	68	(12.3%)
障害者手帳	36	(6.5%)
障害年金・障害手当金	14	(2.5%)
小児慢性特定疾病医療費助成（各市町実施）	9	(1.6%)
特別児童扶養手当	5	(0.9%)
障害児福祉手当	5	(0.9%)
生活福祉資金貸付制度	5	(0.9%)
乳幼児等に係る医療費の援助	4	(0.7%)
妊よう性温存治療費助成	4	(0.7%)
自立支援医療制度（育成医療）	2	(0.4%)
その他	14	(2.5%)
上記のものは利用していない	38	(6.8%)

(複数回答 総数 555)



問28. がん相談支援センター※を利用したことがありますか。

がん相談支援センターを知らない	196	(33.8%)
がん相談支援センターを知っているが、利用したことはない	286	(49.3%)
利用したことがある	98	(16.9%)

(回答数 580)

※がん相談支援センター：全国の小児がん拠点病院、がん診療連携拠点病院などに設置されている病気や療養生活などに関する相談窓口です。

問28-②. 問28で「知っているが、利用したことはない」と答えた方にお聞きします。利用しなかった理由を教えてください。(当てはまるもの全て)

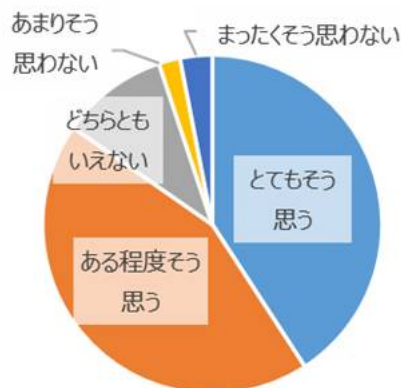
必要としていたときには知らなかった	25	(10.1%)
相談したいことはなかった	159	(64.4%)
何を相談する場なのかわからなかった	47	(19.0%)
プライバシーの観点から行きづらかった	12	(4.9%)
相談を受け止めてもらえるか自信がなかった	14	(5.7%)
その他	17	(6.9%)

(複数回答 総数 247)

問28-③. 問28で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。がん相談支援センターを利用して役に立ったと思いますか。

とてもそう思う	40	(40.8%)
ある程度そう思う	43	(43.9%)
どちらともいえない	10	(10.2%)
あまりそう思わない	2	(2.0%)
まったくそう思わない	3	(3.1%)

(回答数 98)



問29. がん治療中の様々な困ったことについて、専門的な緩和ケア部門(緩和ケア外来や緩和ケアチーム)に相談したことはありますか。

ない	524	(91.3%)
ある	50	(8.7%)

(回答数 574)

問29-②. 問29で「ない」と答えた方にお聞きします。相談しなかった理由を教えてください。

主治医やその他の担当医療者の対応だけで十分だった	362	(77.7%)
そのような部門を知らなかった	94	(20.2%)
相談したかったができなかった	10	(2.1%)

(回答数 466)

問29-③. 問29で「ある」と答えた方にお聞きします。満足のいく対応でしたか。

とても満足した	22	(44.0%)
少し満足した	26	(52.0%)
どちらでもない	0	(0.0%)
少し不満だった	2	(4.0%)
とても不満だった	0	(0.0%)

(回答数 50)



問30. 療養生活を自宅で過ごすためには、どのような条件が必要だと思いますか。(最も当てはまるもの上位3つ)

家族に負担があまりかからないこと	330	(58.8%)
介護してくれる家族がいること	294	(52.4%)
家族に理解があること	260	(46.3%)
急変時の医療体制があること	175	(31.2%)
家族に病気や介護の知識があること	93	(16.6%)
家族の介護疲れなどの際に一時的に病院に入院できること	85	(15.2%)
自宅に往診してくれる医師がいること	77	(13.7%)
在宅療養に関する相談先があること	58	(10.3%)
訪問看護など自宅に看護師等が来て看護が受けられること	47	(8.4%)
自宅が介護できる住居構造になっていること	33	(5.9%)
信頼できるケアマネジャーがいること	31	(5.5%)
車いすやベッドなどの福祉用具がそろっていること	19	(3.4%)
訪問介護など自宅に介護員等が来て介護が受けられること	17	(3.0%)
訪問リハビリなど自宅に理学療法士・作業療法士等が来てリハビリが受けられること	12	(2.1%)
その他	8	(1.4%)

(複数回答 総数 561)

問31. がんと確定診断されたとき、就学または就労していましたか。

就学していた	6	(1.1%)
就労していた	314	(55.5%)
就学も就労もしていなかった	242	(42.8%)
わからない	4	(0.7%)

(回答数 566)

⇒ 「就学していた」と回答した方は、問32～問36に回答。

「就労していた」と回答した方は、問37～42-③に回答。

V がん治療と就学について

- ・ 治療開始前に教育支援について病院から説明を受けた方の割合は、54.5%
- ・ 治療と教育の両立について配慮を感じた（とても／ある程度）と思った方の割合は、50.0%
- ・ 院内学級のある学校や特別支援学校等に転校し、授業を受けた方の割合は、50.0%

問32. がんと確定診断された当時の就学状況についてお答えください。

小学校	1	(12.5%)
中学校	2	(25.0%)
高等学校	1	(12.5%)
特別支援学校	0	(0.0%)
大学（短期大学を含む）	0	(0.0%)
その他	4	(50.0%)

(回答数 8)

問33. 治療を始める前に教育の支援等について、病院の医療スタッフから説明がありましたか。

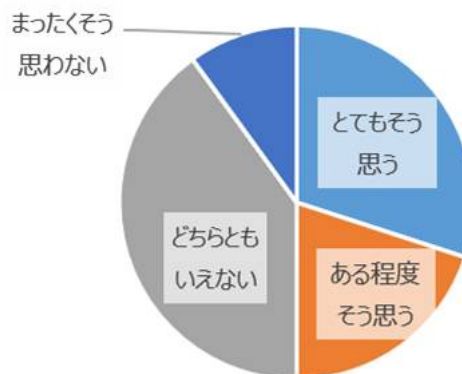
説明はなく、説明を必要としてもいなかった	2	(18.2%)
説明を必要としていたが、説明はなかった	2	(18.2%)
説明があった	6	(54.5%)
わからない	1	(9.1%)

(回答数 11)

問34. 学校や教育上の関係者と医療者が連携して、治療と教育を両方続けられるような配慮を感じられましたか。

とてもそう思う	3 (30.0%)
ある程度そう思う	2 (20.0%)
どちらともいえない	4 (40.0%)
あまりそう思わない	0 (0.0%)
まったくそう思わない	1 (10.0%)

(回答数 10)



問35. 診断後の就学状況はどうでしたか。

治療前と同じ学校に通学している	1 (16.7%)
治療のため、院内学級のある学校、特別支援学校等に転校した	3 (50.0%)
就学猶予、就学免除または休学中である	2 (33.3%)

(回答数 6)

問35-②. 問35で「治療前と同じ学校に通学している」以外を選択した方にお聞きします。治療中に利用したものについてお答えください。(当てはまるもの全て)

病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた	2 (66.7%)
原籍校の教員が病院や自宅等に来て授業を受けた	1 (33.3%)
利用したものはない	1 (33.3%)
その他	1 (33.3%)

(複数回答 総数 3)

問36. 治療と教育を両立するために必要性を感じた(感じている)ものについて、自由に記入してください。

- ・オンデマンド授業などを行うことのできる環境
- ・学校側のサポート(担任及び各先生方)
- ・教師の病状の理解・変化の気付き、医療従事者と教師の情報共有 等

VI がん治療と就労について

- ・ 治療時に勤務先の支援（手厚い／それなりに）を受けられた方の割合は、68.5%
- ・ 治療と仕事の両立に必要性を感じたもので多いものは、「時間・半日単位の休暇制度(53.2%)」、「試し出勤(37.0%)」、「両立の相談窓口(36.0%)」、「短時間勤務制度(34.7%)」
- ・ 56.7%の方が、同じ職場で仕事を継続（内容や量を調整した場合を含む）
- ・ 休業した方の50.8%が、少なくとも一度は復職している

問37. がんと確定診断された当時の就業形態についてお答えください。

会社員（正規の職員・従業員）	143	(43.6%)
パート・アルバイト	91	(27.7%)
個人事業主(農業・漁業従事 含)	50	(15.2%)
会社の役員	17	(5.2%)
契約職員・委託職員	16	(4.9%)
派遣社員	5	(1.5%)
その他	6	(1.8%)

(回答数 328)

問38. 治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから説明がありましたか。

説明はなく、説明を必要としてもいなかった	144	(44.3%)
説明を必要としていたが、説明はなかった	19	(5.8%)
説明があった	135	(41.5%)
わからない	27	(8.3%)

(回答数 325)

問39. 治療を継続するに当たって勤務先の支援を受けられましたか。

手厚い支援を受けた	83	(26.2%)
それなりの支援を受けた	134	(42.3%)
ほとんど支援は受けられなかった	42	(13.2%)
支援どころかマイナスになった (退職を思わせるような話や待遇の変更など)	10	(3.2%)
勤務先にはがんと診断されたことを話さなかった	14	(4.4%)
その他	34	(10.7%)

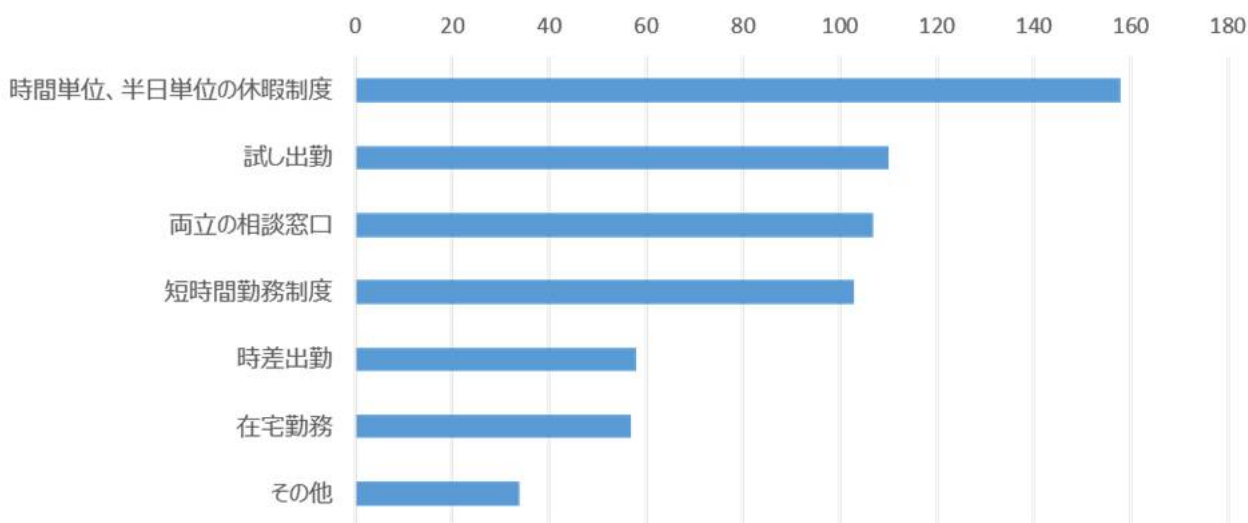
(回答数 317)

「その他」のうち、「自営業」との趣旨の回答が8。

問40. 治療と仕事を両立するために必要性を感じた(感じている)ものについて、お答えください。(当てはまるもの全て)

時間単位、半日単位の休暇制度(定期的・不定期に取得する休暇)	158	(53.2%)
試し出勤(復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと)	110	(37.0%)
両立の相談窓口	107	(36.0%)
短時間勤務制度(所定労働時間を一定期間、短縮する制度)	103	(34.7%)
時差出勤(長さは所定の労働時間で出勤をずらす)	58	(19.5%)
在宅勤務(テレワーク)	57	(19.2%)
その他	34	(11.4%)

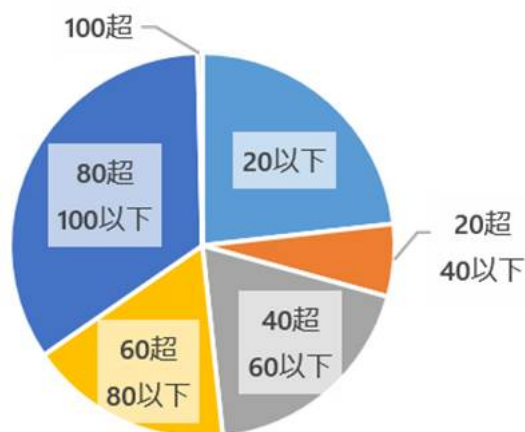
(複数回答 総数 297)



問41. 治療開始前と開始後1年後の月収がどのように変化したか、教えてください。(治療開始前を100として、増えた場合は100より大きい数字、減った場合は100より小さい数字)

20以下	61	(23.2%)
20を超え40以下	16	(6.1%)
40を超え60以下	50	(19.0%)
60を超え80以下	45	(17.1%)
80を超え100以下	90	(34.2%)
100超	1	(0.4%)

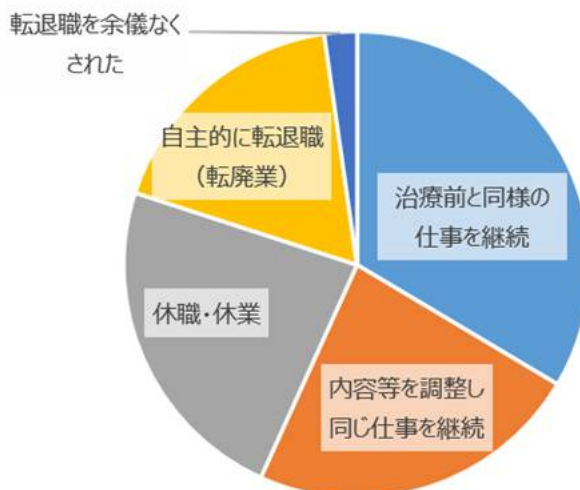
(回答数 263)



問42. がんと診断された後の仕事の状況についてお答えください。

治療前と同様の仕事を継続した	104	(33.5%)
内容や量を調整して同じ職場で仕事を継続した	72	(23.2%)
休職・休業はしたが、転職・退職または転業・廃業はしなかった	72	(23.2%)
自主的に転職・退職または転業・廃業した	55	(17.7%)
勤務先から転職・退職を余儀なくされた	7	(2.3%)

(回答数 310)



問42-②. 問42で「休職・休業はしたが、転職・退職または転業・廃業はしなかった」と答えた方にお聞きします。その後、どのようにされましたか。

(少なくとも一度は) 復職した	31	(50.8%)
(一度も) 復職していない	30	(49.2%)

(回答数 61)

問42-③. 問42で「自主的に転職・退職または転業・廃業した」または「勤務先から転職・退職を余儀なくされた」と答えた方にお聞きします。その後、どのようにされましたか。

再就職・復業した	8	(12.9%)
再就職・復業の希望はあるが現時点では無職	21	(33.9%)
再就職・復業の希望はない	33	(53.2%)

(回答数 62)



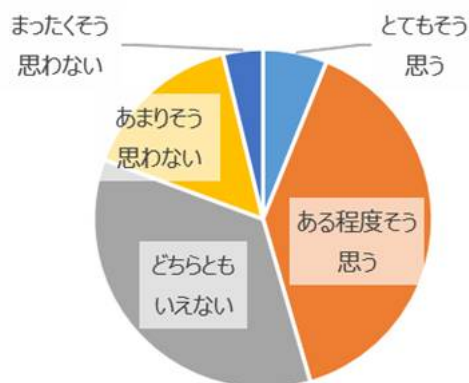
Ⅶ 療養生活全般について

- ・患者・家族への支援等の状況について、十分あると思う（とても／ある程度）方の割合は、45.5%
- ・がん対策で県が力を入れるべきことは、「がんの早期発見(66.4%)」、「医療体制の充実(51.2%)」、「がんの発症予防(30.6%)」、「相談支援体制の充実(24.7%)」等

問43. がん患者やその家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所は十分あると思いますか。

とてもそう思う	34	(6.1%)
ある程度そう思う	218	(39.4%)
どちらともいえない	195	(35.2%)
あまりそう思わない	86	(15.5%)
まったくそう思わない	21	(3.8%)

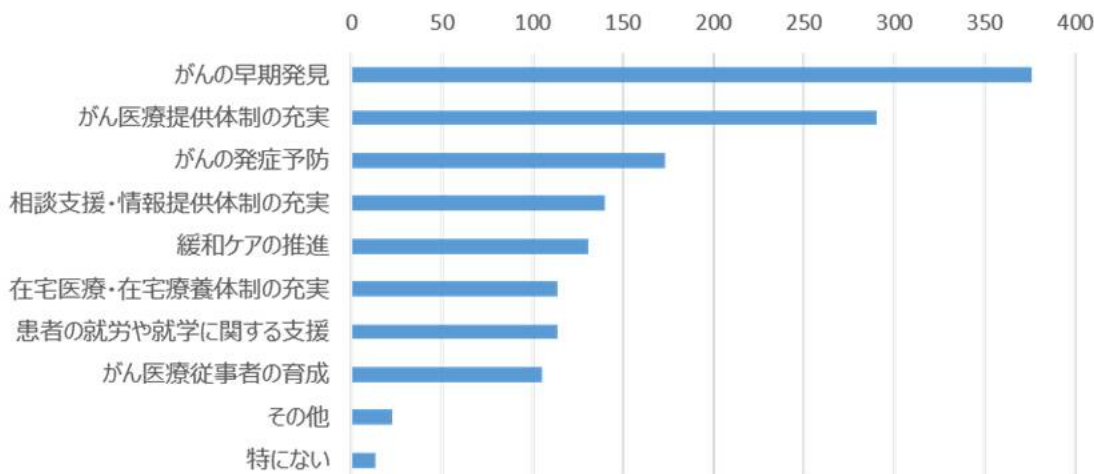
(回答数 554)



問44. がん対策について、県はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(最も当てはまるもの上位3つ)

がんの早期発見（がん検診の受診率向上など）	376	(66.4%)
がん医療提供体制の充実（医療機関の整備など）	290	(51.2%)
がんの発症予防（生活習慣の改善など）	173	(30.6%)
相談支援・情報提供体制の充実	140	(24.7%)
緩和ケアの推進	131	(23.1%)
在宅医療・在宅療養体制の充実	114	(20.1%)
患者の就労や就学に関する支援	114	(20.1%)
がん医療従事者の育成	105	(18.6%)
その他	22	(3.9%)
特にない	13	(2.3%)

(複数回答 総数 566)



問45. 療養生活を続ける中で、よかった・悪かったと感じた出来事、各質問へのご意見、行政に対するご要望、その他気づかれた点などをご自由に記入してください。

- ・がんを早期に発見でき、治療が開始できたことで、身体的・精神的な負担もそこまでは大きくなかった。早期発見・早期治療に繋げるため、がん検診受診率の向上に取り組んでいただきたい。
- ・経済的な負担に対する支援（高額療養費制度、医療用補整具助成 等）は大変ありがたかった。今後、通院時の交通費助成（タクシー等）も充実いただきたい。
- ・自分ががんと診断されたとき、子どもに病気のことをどのように伝えればいいのか非常に戸惑った。子育て中の世代にもがんと直面する可能性はあるので、子育て支援センターなど、子育て世代が訪れる施設でも情報を知ることができれば良いと思う。
- ・子どもの付き添い入院が必要な家族への支援（例えば、食事や寝具などの提供 等）がもう少しあればありがたい。
- ・休職し、復職できるかという不安があったが、上司の言葉に励まされた。理解のある職場、上司に恵まれた。このような上司や職場が増えるよう、啓発活動をお願いしたい。
- ・主治医以外にも、複数の専門医（先生方）がチームを組んで治療してくださり、安心できた。
- ・治療の過程で、一人で悩んだ時期があったが、がん患者サロンのように、がん患者同士のコミュニティでは気兼ねなく悩みを相談できた。患者会やがん相談支援センター等を周知いただければ、精神面での負担が減ると思う。

このほか、医療従事者に対する感謝の言葉を多数いただきました。

Ⅷ クロス集計

・告知時のがんのステージ：

男性・女性ともにステージⅣが最も多い。女性は男性に比べ、ステージⅠの割合が多い。

・情報収集手段：

幅広い層において、インターネットによる情報収集が最も多い。(60歳代迄)
70歳代以降は、追加の情報収集をしない方が多い。

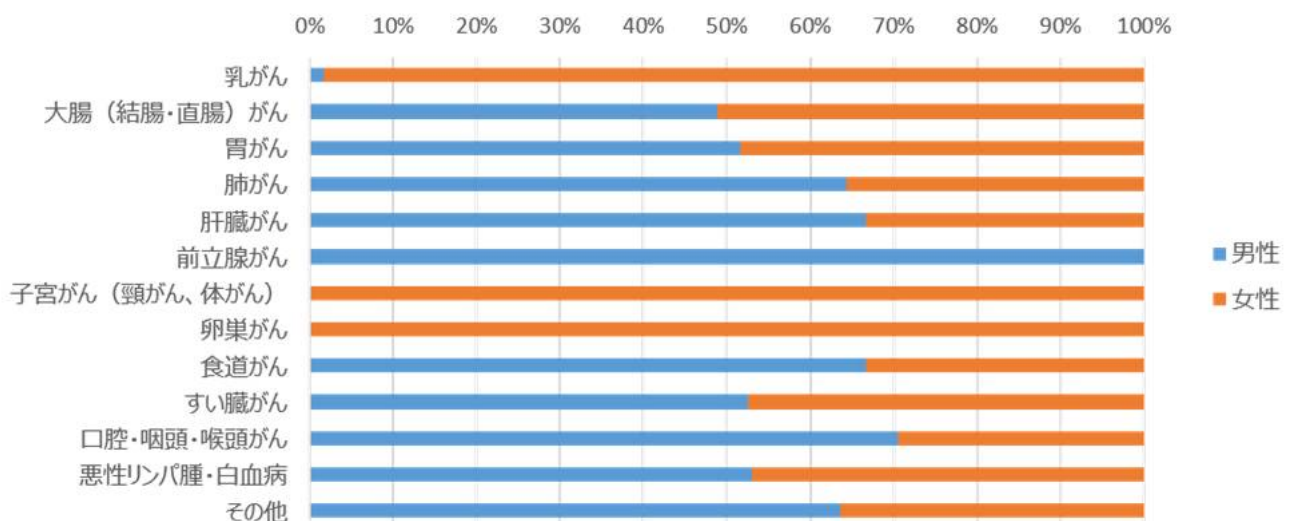
家族・親戚や友人・知人から情報収集する方は、世代を問わず多い。

・就労継続状況：

ステージⅠ～Ⅱでは約7～8割、Ⅲ～Ⅳでは約4～5割が、同じ仕事を継続している。(内容や量を調整している場合を含む)

① がんの部位(問8)と性別(問2)

項目	男性	女性	無回答	合計
乳がん	1	59	0	60
大腸(結腸・直腸)がん	45	47	0	92
胃がん	16	15	0	31
肺がん	56	31	0	87
肝臓がん	12	6	0	18
前立腺がん	35	0	0	35
子宮がん(頸がん、体がん)	0	24	0	24
卵巣がん	0	23	0	23
食道がん	8	4	0	12
すい臓がん	21	19	0	40
口腔・咽頭・喉頭がん	12	5	0	17
悪性リンパ腫・白血病	26	23	1	50
その他	61	35	0	96
合計	293	291	1	585

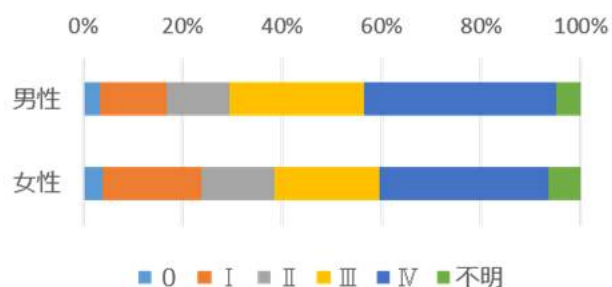


② がんの部位(問8)と年代(問3)

項目	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答	合計
乳がん	0	0	0	0	10	13	19	11	6	0	1	60
大腸がん	0	0	0	2	4	17	32	31	5	0	1	92
胃がん	0	0	0	1	0	2	6	17	4	1	0	31
肺がん	0	0	0	1	2	11	24	43	5	0	1	87
肝臓がん	0	0	0	0	0	2	2	8	5	1	0	18
前立腺がん	0	0	0	0	2	2	11	15	5	0	0	35
子宮がん	0	0	0	1	2	12	5	3	1	0	0	24
卵巣がん	0	0	0	1	0	9	7	5	1	0	0	23
食道がん	0	0	0	0	0	0	3	6	3	0	0	12
すい臓がん	0	0	0	0	0	5	11	20	4	0	0	40
口腔・咽頭・喉頭がん	0	0	0	0	1	1	7	5	3	0	0	17
悪性リンパ腫・白血病	0	3	1	2	0	9	12	16	7	0	0	50
その他	3	0	0	0	4	15	25	31	17	1	0	96
合計	3	3	1	8	25	98	164	211	66	3	3	585

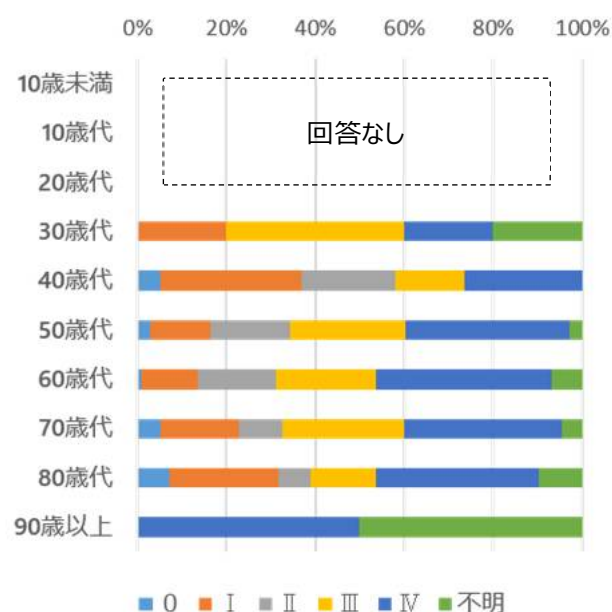
③ がんのステージ(問9)と性別(問2)

項目	0	I	II	III	IV	不明	合計
男性	7	28	26	56	80	10	207
女性	8	41	30	43	70	13	205
無回答	0	0	0	1	0	0	1
合計	15	69	56	100	150	23	413



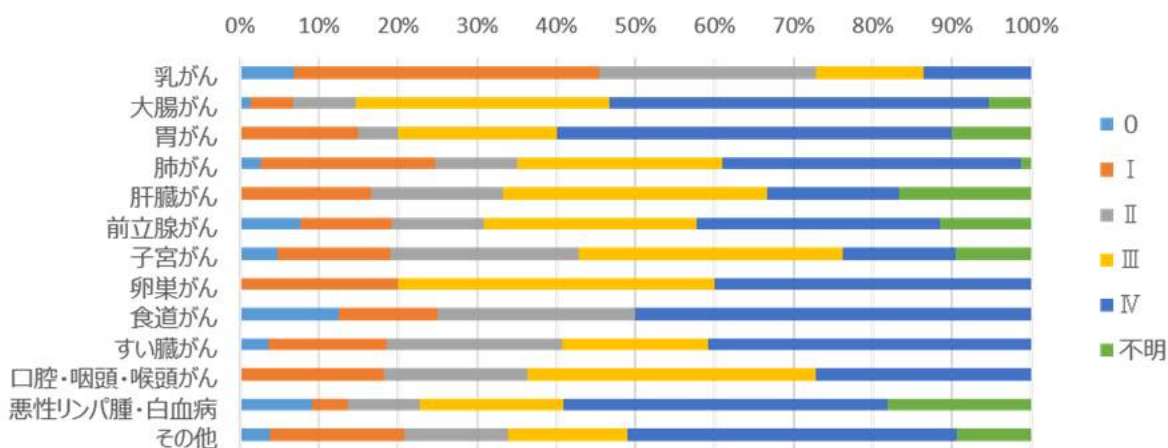
④ がんのステージ(問9)と年代(問3)

項目	0	I	II	III	IV	不明	合計
10歳未満	0	0	0	0	0	0	0
10歳代	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	0	0	0	0	0	0	0
30歳代	0	1	0	2	1	1	5
40歳代	1	6	4	3	5	0	19
50歳代	2	10	13	19	27	2	73
60歳代	1	15	21	27	47	8	119
70歳代	8	27	15	42	54	7	153
80歳代	3	10	3	6	15	4	41
90歳以上	0	0	0	0	1	1	2
無回答	0	0	0	1	0	0	1
合計	15	69	56	100	150	23	413



⑤ がんの部位(問8)とがんのステージ(問9)

項目	0	I	II	III	IV	不明	無回答	合計
乳がん	3	17	12	6	6	0	16	60
大腸がん	1	4	6	24	36	4	17	92
胃がん	0	3	1	4	10	2	11	31
肺がん	2	17	8	20	29	1	10	87
肝臓がん	0	2	2	4	2	2	6	18
前立腺がん	2	3	3	7	8	3	9	35
子宮がん	1	3	5	7	3	2	3	24
卵巣がん	0	3	0	6	6	0	8	23
食道がん	1	1	2	0	4	0	4	12
すい臓がん	1	4	6	5	11	0	13	40
口腔・咽頭・喉頭がん	0	2	2	4	3	0	6	17
悪性リンパ腫・白血病	2	1	2	4	9	4	28	50
その他	2	9	7	8	22	5	43	96
合計	15	69	56	99	149	23	174	585



⑥ がんの部位(問8)と治療内容(問12)

項目	手術	化学療法	放射線治療	造血細胞移植	ホルモン療法	緩和ケア	その他	わからない	無回答
乳がん	46	39	20	0	19	2	0	1	2
大腸がん	78	64	8	0	0	2	0	0	3
胃がん	17	16	1	0	0	1	2	2	1
肺がん	29	69	20	0	0	2	3	2	2
肝臓がん	14	11	3	0	0	0	0	0	0
前立腺がん	23	3	4	0	13	1	3	1	2
子宮がん	18	19	8	0	1	1	0	0	0
卵巣がん	19	22	0	0	0	1	1	0	0
食道がん	5	7	4	0	1	0	1	1	0
すい臓がん	16	32	8	0	1	3	2	0	1
口腔・咽頭・喉頭がん	7	10	12	0	0	1	0	0	1
悪性リンパ腫・白血病	10	37	8	8	0	1	1	1	5
その他	57	59	21	3	2	0	3	2	3

備考 治療内容は複数回答。手術は内視鏡治療を含む。化学療法は分子標的薬、免疫療法を含む。放射線治療は陽子線治療、重粒子線治療を含む。造血細胞移植は同種移植、自家移植を含む。

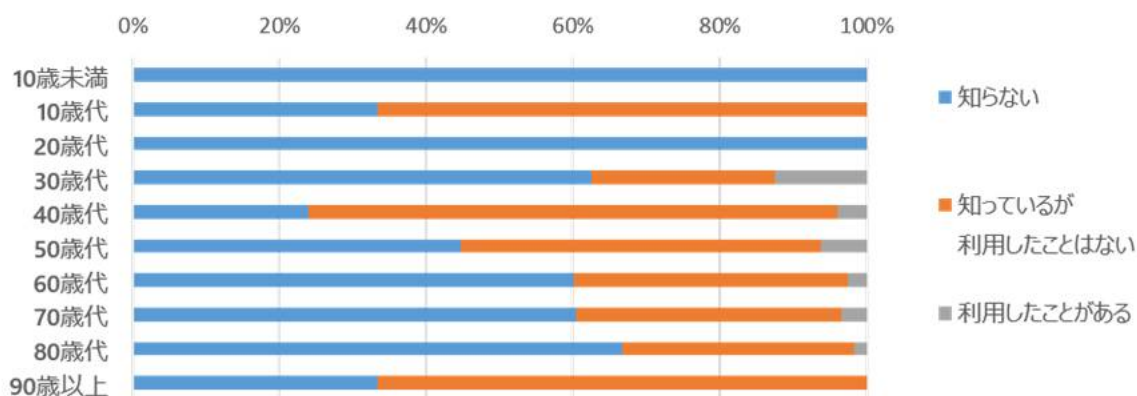
⑦ 情報収集手段(問17)と年代(問3)

項目	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答
追加で情報収集はしなかった	1	0	1	0	7	32	52	115	42	1	4
インターネット	2	3	1	7	21	67	107	82	24	1	7
家族・親戚	2	1	0	1	7	22	46	53	11	1	2
友人・知人(がん患者以外)	0	1	0	0	2	16	18	10	4	0	2
友人・知人(がん患者・経験者)	0	0	0	2	4	14	29	24	6	0	4
患者会・ピアサポーター	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0
主治医以外の医療関係者	0	0	1	2	7	12	24	11	5	0	0
病院内のチラシやパンフレット	1	0	0	2	6	21	23	38	11	0	3
病院外(役場等)のチラシ等	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0
がん患者必携 地域の療養情報	1	1	0	0	0	1	1	3	3	0	1
がん相談支援センター	0	0	0	0	0	4	7	8	2	0	0
加入保険会社の担当者	0	0	0	0	1	3	5	1	0	0	0
書籍	0	0	0	1	5	4	9	19	4	1	0
テレビ	0	0	0	0	0	2	3	9	2	0	1
セカンドオピニオン外来	0	0	0	1	0	3	7	1	1	0	0
その他	0	1	0	0	0	1	2	6	0	1	0

備考 情報収集手段は複数回答

⑧ 患者会等の利用状況(問18)と年代(問3)

項目	知らない	知っているが 利用したことはない	利用したことがある	合計
10歳未満	3	0	0	3
10歳代	1	2	0	3
20歳代	1	0	0	1
30歳代	5	2	1	8
40歳代	6	18	1	25
50歳代	43	47	6	96
60歳代	98	61	4	163
70歳代	124	74	7	205
80歳代	42	20	1	63
90歳以上	1	2	0	3
無回答	7	5	0	12
合計	331	231	20	582



⑨ 妊孕性に関する説明状況(問 22)と年代(問3)

項目	説明はされず、説明を必要として 説明を必要として もいなかった	説明を必要として いたが、説明はさ れなかった	説明があった	わからない	合計
10歳未満	1	0	2	0	3
10歳代	0	0	2	1	3
20歳代	0	0	0	1	1
30歳代	2	1	4	1	8
40歳代	13	1	5	5	24
50歳以上	404	9	51	32	496
無回答	5	2	3	2	12
合計	425	13	67	42	547

⑩ 就学・就労状況(問 31)とがんのステージ(問9)

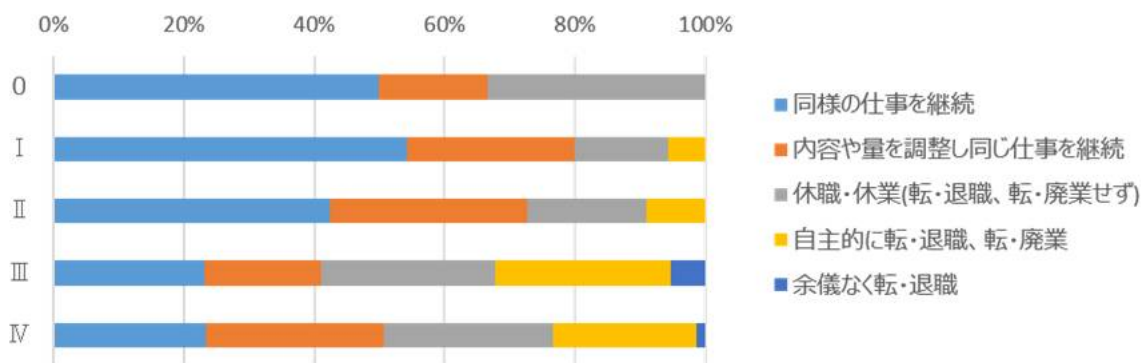
項目	0	I	II	III	IV	不明	無回答	合計
就学していた	0	0	0	0	1	0	5	6
就労していた	7	37	32	56	77	13	92	314
就学も就労もしていなかった	7	27	22	43	61	9	73	242
わからない	0	1	0	0	0	0	3	4
合計	14	65	54	99	139	22	173	566

⑪ 就労継続状況(問 42)とがんの部位(問8)

項目	同様の仕 事を継続	内容や量を 調整し同じ 仕事を継続	休職・休業 (転・退職、 転・廃業せ ず)	自主的に 転・退職、 転・廃業	余儀なく 転・退職	合計
乳がん	9	14	7	7	2	39
大腸がん	18	12	14	11	1	56
胃がん	3	4	4	1	0	12
肺がん	20	11	8	8	1	48
肝臓がん	3	0	0	0	0	3
前立腺がん	9	3	1	2	0	15
子宮がん	5	3	7	0	0	15
卵巣がん	2	2	5	2	1	12
食道がん	3	0	2	1	0	6
すい臓がん	4	6	5	4	0	19
口腔・咽頭・喉頭がん	5	1	1	2	0	9
悪性リンパ腫・白血病	7	3	5	6	0	21
その他	16	12	13	12	2	55
合計	104	71	72	56	7	310

⑫ 就労継続状況(問42)とがんのステージ(問9)

項目	0	I	II	III	IV	不明	無回答	合計
同様の仕事を継続	3	19	14	13	18	7	30	104
内容や量を調整し同じ仕事を継続	1	9	10	10	21	1	19	71
休職・休業(転・退職、転・廃業せず)	2	5	6	15	20	2	22	72
自主的に転・退職、転・廃業	0	2	3	15	17	2	17	56
余儀なく転・退職	0	0	0	3	1	0	3	7
合計	6	35	33	56	77	12	91	310



⑬ 就労継続状況(問42)と就業形態(問37)

項目	会社員	パート・アルバイト	個人事業主	契約・委託職員	派遣社員	会社役員	その他	無回答	合計
同様の仕事を継続	57	14	16	5	0	11	1	0	104
内容や量を調整し同じ仕事を継続	31	16	15	4	0	5	0	0	71
休職・休業(転・退職、転・廃業せず)	33	23	8	5	2	1	0	0	72
自主的に転・退職、転・廃業	14	31	8	1	1	0	0	1	56
余儀なく転・退職	6	1	0	0	0	0	0	0	7
合計	141	85	47	15	3	17	1	1	310



香川県がん征圧イメージキャラクター
「ソウキくん」

調査に御協力いただきました皆様、ありがとうございました。
いただいた御意見を、今後のがん対策に活かしてまいります。

かがやくけん、かがわけん。

香川県